前のシナリオの結末は?

- (1) 終幕 A
- 2 終幕 B

·街

あなたの名はマイルズ。こ こ《白楢の都》で一緒になった家族 族を養うため、衛兵として勤めて数年に なる。ウィンドミア議員が行方不明だという のに、商人ギルドからは「捜査の必要などな い」というお達しだ。おかしな話だが、その ことを騒ぎたてた友人のロジャーもまた、す ぐさま行方不明となった。このことには関与 せず、頭を深く垂れてやり過ごすのが、賢い やりかたなのだろう。

今朝の訓令では「《古の山口》から脱獄した連中の面倒をみるように」と申しつけられた。「そもそもの罪状は何だったのです?」と訊ねたが、衛兵隊長は全く関心がないようすで無言だった。目の前の脱獄者どもは、汚れ、ひどく痛めつけられ「はめられた」とか「このヴァルラスが真犯人だ」とか、うわごとのように繰り返している。

選択 Ⅰ: 全員まとめて衛兵隊長の元までしょっ

選択 1: よく話を聞き、真相を究明する。

C1-5

■ この連中は、明らかに何らかの罪を犯している。それでも好奇心のほうが優ったため、状況説明とやらを辛抱強く聞いてみることにした。残念ながら、たいして重要なことは知らないようだ。「このヴァルラスからとある短剣を買ったら投獄され、シン=ラと名乗る一団によって命を狙われ続けている」とかなんとか。そのヴァルラスはカージンと名乗り、たびたび「シン=ラの手の届かないところまで、逃げおおせなくてはなりません」と繰り返した。こんな御託など、いちいち聞いていられない。

ただひとつ興味を惹くことがあった――《古の山口》の遺体から回収されたという風車の紋章の指輪だ。ウィンドミア議員のものに相違あるまい……

「わかった、もうたくさんだ」あなたは口をはさんだ。「確かにこれは調査に値する案件だ。だがこの男は身の危険を訴え続けているし、オレもどうも、そんな気がしてきた。兵舎まで連れて行ってやろう。信頼に足る同僚がいるし、安全なはずだ」

各人チェックマーク 🗸 1つずつ獲得

首都の 6 💥

同調圧力

開始条件:なし

目的: 街の全衛兵と全射手を、説得するか倒す

序幕:

「よい考えとは思えませんな」兵舎へと引き ずられながら、カージンがこぼした。「この 街の衛兵隊は、信ずるに足りません!」

「口を慎むがいい!」マイルズは肩越しにそう叫びつつ、賑やかな通りを先導した。「オレだって考えてるつもりだ。公共の場にいる限り、シン=ラの野郎どもだって手出しはできない。あいつら、うまく痕跡を隠してるつもりだろうが、工作が多すぎる。全部を隠し通すことなんて、できやしないんだからな」

これが初めてということもない。確かに「蛇の策」は、さほど人通りの多くない地域でおこなわれた。マイルズが正しいことを祈りたい。だがそのとき屋根の辺りから一本の矢が飛来し、カージンの背に突き刺さった。

「うぐっ!」うめいて倒れる。諸君は駆け 寄り、カージンを引っ掴んで先を急がせた。 だが傷は浅くはない。建物の上部を探る。 矢がどこから来たのか、見当もつかない。 すぐに二の矢、三の矢が飛んでくるだろう。

「歩みを止めるな!」マイルズが言った。 「兵舎までは、さほど遠くない。市場の出店 を盾に、進み続けるんだ!」

果たして後続の矢が放たれたが、他に誰も 負傷には至らなかった。数分後、兵舎に駆け こみ、背後の扉をピシャリと閉めた。部屋の 中央には、衛兵隊に囲まれて豪奢な鎧を着こ んだ男がいた。

「え、衛兵隊長殿!」マイルズはどもった。 「まさか昼日中のこんな時分に、ここに居 られるとは……」

「ああ、こんなところになど居たくはなかったさ。だが、マイルズ。お前さんが、とんでもない連中とつるんでると、通報があってな」隊長は続けた。「お前さんは法を破り、この犯罪者どもの手助けをしている。なら、お前さんふくめこの全員を収監せねばなるまいて」

「隊長殿ともあろうおかたが、なにをバカげたことを!」マイルズが言い返した。「何かが起こっているのです。オレはその真相を究明すべく、衛兵としての務めを果たしているだけ!」











恐狼

街の衛兵

街の射手

宝箱 (xl)

負傷& 気絶 � の罠 (x2)



石の柱 (x4)



テーブル(x3)



書棚(x3)

他の衛兵たちは口々に意見をもらしつつ、 片手を上げ、いさめた。

「よかろう! お前さんには、お前さんの務 めがある。この連中に手枷をはめて《古の山 口》まで護送するのだ。こちらにも出席せに ゃならん別件があるからなし

言いながら、隊長は脇の出口へと向かっ た。そこで何頭かの番犬の鎖を外し、かまち を潜った。「どんな手段を使ってでも、その 脱獄者どもを制圧するのだ。この私を失望さ せるなよ」

マイルズはこちらに向き直った。「オレに 説得する時間をくれ」そして続けた。「こい つらは信頼に足る戦友だ。オレの話をきちん ときいてくれる。オレが真実を伝えるあい だ、なんとか防いでいてくれ」

そういうことなら手早く済ませてほしいも のだ。いまのところ他の衛兵はやる気満々の ようだし、カージンの血で床が赤く染まって いく。

特別ルール:

ヘクス 1 に、番号があるシナリオ補助ト ークンを1枚配置してください。これはマイ ルズで、パーティの仲間であり、他の全モン スターの敵です。装甲 1で、HPは通常の 街の衛兵の2倍です。マイルズが倒れたら、 パーティはこのシナリオに敗北します。

マイルズは毎ラウンド行動順位49で、通常 の狙いのルールにしたがって、街の衛兵もし くは射手1体を狙いつつ「移動3」を実行し ます。マイルズが狙いに隣接したら、狙いの スリーブの該当箇所に、番号があるシナリ オ補助トークンを「説得トークン」として 1枚配置してください。説得トークンが1 個か2個あるモンスターは気絶 ◈ 状態とみ なし、手番で何の行動もできません。説得 トークンが3個になったモンスターは、寝 返ってパーティの仲間となり、もはや気 絶 ◆ 状態とはみなされません。パーティ側 に寝返った街の衛兵もしくは射手は、他の 街の衛兵&射手にとっては仲間のままです が、恐狼には敵となります。

第3~6ラウンド終了時、 (6) に恐狼が1 体発生します。キャラクター2人ゲームなら 通常の、3人なら奇数ラウンドには通常の偶 数ラウンドには上級の、4人なら常に上級の 恐狼です。

第7~10ラウンド終了時、キャラクター2 人ゲームなら (1) に恐狼 (上級) が1体、3 人ゲームなら **(f)** に恐狼 (上級) が 1 体 **(** に恐狼(通常)が1体、4人ゲームなら **(f)** と (こ)に恐狼(上級)が1体ずつ発生します。

第11ラウンドからは、キャラクター2人 有事に備えて足を動かし始めた。だが隊長は ゲームなら (1) に恐狼 (上級) が1体 (2) に 恐狼(通常)が1体、3人ゲームなら 6 と

(通常) が1体、4人ゲームなら 6 と 0

敵である街の衛兵&射手がいなくなった ら、このシナリオは成功裏に完遂となります。

終幕:

多くの衛兵が負傷で地に倒れ伏した。立っ € に恐狼(上級)が1体ずつ 🚺 に恐狼 ていられるものは、例のヴァルラス含め負傷 者に応急処置を施してまわった。マイルズが と 🐧 に恐狼(上級)が1体ずつ発生します。味方になってくれたのだから、ここにいる全 衛兵は、いずれ諸君の事情をきちんと理解し てくれることだろう。

> 使える資材を集め、兵舎の入口にバリケー ドを築いた。人殺しの怪物どもに邪魔されな いうちに、しばしの休息と次なる計画の立案 をしよう。

報酬:

各人、マップ上に残った街の衛兵および 射手の合計数の5倍のXP獲得。

この、マップ上に残った街の衛兵および 射手の合計数を記録しておくこと。

首都の陰謀

マップ上に残った街の衛兵と 射手の合計数:

- 0人
- (2) 1人
- (3) 2人
- 4 3人
- (5) 4人
- **(6)** 5人
- (7) 6人
- 7人

や、諸君とマイルズは、詳細を話すようにと 詰め寄った。

「まあ、ときには盗品を扱うことだってあり ます」カージンは認めた。「たいていは大し た問題にはなりません――出所なんか隠せま すからね――ところがあの短剣は違った。常 連客のひとりから買い取ったものですが、こ いつが大問題だ。

初当選のジェリック議員の居室からくすね たそうです。当てがわれた新たな部屋に、充 分な警備体制が敷かれる前に、盗んだという わけです。ところがその柄には、黒い液体の 瓶が仕込まれていた――シン=ラだけが使う 特別な毒でした」

「そういえばジェリックは、ウィンドミアの 後釜に座ったんだ!」マイルズが喘いだ。 「なるほどシン=ラは、商人上院議会の議員 を暗殺し、自分たちの仲間を送りこんでいた というわけか!|

「それは確かにそうかもしれません」カージ ンは続けた。「しかし同時に考慮すべきは、 我々がこの秘密を知ってしまったという事実

カージンが負傷から回復したと見るやいな です。口封じのためなら、シン=ラは手段を 選ばないでしょう。既にあの衛兵隊長は陥落 していますし、秘密隠蔽のためなら、無辜の 市民を何人犠牲にしてもいいと考えている。 早くこの街から出るべきです。例の常連客か らきいた話では、グルームヘイヴンならシ ン=ラの影響力はさほどでもないそうです。 あそこなら生き延びることができる」

> 「逃げるだと?」マイルズは鼻で笑った。 「バカバカしい! こんな秘密を抱えたまま で、逃げおおせるなんてできっこない! オ レたちはこの街の存亡に関わる話をしてるん だ。留まって戦うべきだね!」

> 「おやおや、皆さんはどんな輩を相手にしよ うとしているのか、わかっておられないらし い」カージンは溜息をついた。「確かに皆さ んは全員優秀な戦士でしょう。けれどまだシ ン=ラの本気を目にしたことはない。だいた い今この時点で、いったい何人の議員にシ ン=ラの息がかかっているのか、わかってい ないのですよ。真の意味での物証もない。ど うやって正体を暴くおつもりで? 私にも、 皆さんを街の外まで無事に送り出す力ぐらい あります。それ以外に、生き伸びる道はあり ませんよし